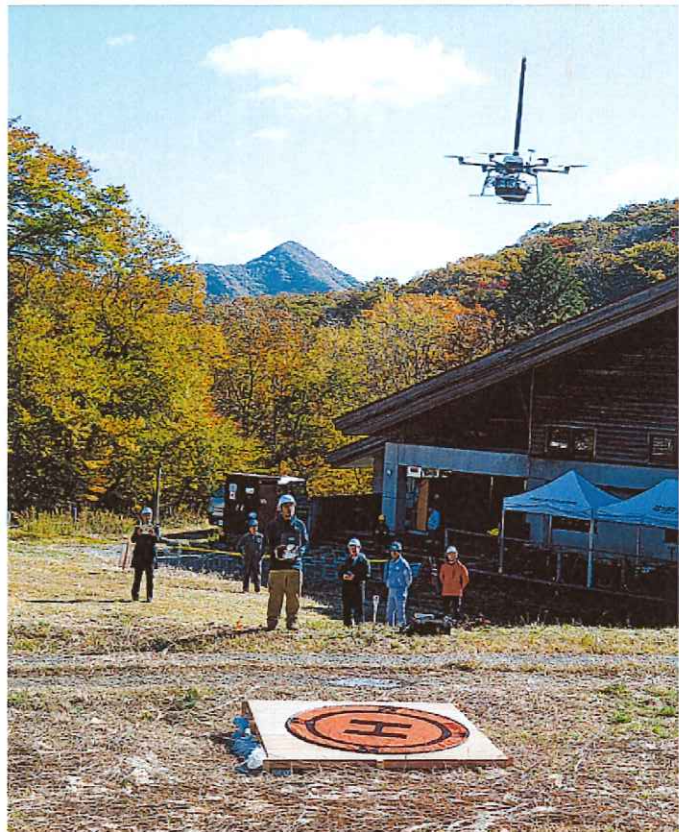


埼玉大大学院研究チーム ドローン使い PM2.5観測 庄原で実証試験

埼玉大大学院理工学
研究科の王青躍教授
(57)の研究チームが、
庄原市西城町油木の県
民の森スキー場(標高
約800m)で、小型
無人機ドローンで微小

ドローンを使ってPM2.5を観測する実証試験



粒子状物質「PM2.5」を観測する実証試験を行った。同大によ

ると、環境観測分野での使用はほとんど例がないという。

王教授(環境科学)

は約30年前から、大気中の粒子やガスについて研究。PM2.5は工場のばい煙や自動車の排ガスに含まれ、中国などから飛来することが多い。実証試験では、肺の奥まで入り込み、呼吸器などに悪影

響を及ぼすとされるPM2.5の上空での濃度を測定。将来的に飛散状況や発生源の予測に役立てる。

ドローン活用は2014年度から日本環境調査研究所(東京)と協力し、積載する計測器の軽量化や精度向上を図ってきた。本格的な実証試験は本年度ス

タートし、埼玉、福島県で実施。3回目は中国大陸から比較的近く、ドローンの高度飛行許可も得られたことから庄原市で行った。

10月31日であった試験には約10人が参加。機体には大気中の粒子を吸入するチューブと、粒子数を毎秒計測する機器を搭載。最大

高度500mまでの上昇と下降を8回繰り返し測定した。

王教授は「迅速に正確なデータを収集する手段としてドローンは有効で、ボタン一つで観測できるオートメーション化を進める計画。早期実用化を目指したい」と話している。

(安河内誠)